

なんで根づくの？



それは地域の皆さんが感じている「困り事」に対応しているから！
 そのため福祉コミュニティ形成事業を進めるに当たって地域福祉推進会議を開催！何に取り組むか？は地域の皆さんが決定。各地区で地域の「困りごと」を住民パワーで解決する方法や仕組みの話し合いからはじめました。

まずは話し合いで種まき！



花を咲かすにはまず種まきから！地域福祉推進会議で最初に行うこと、それは地域の課題「困りごと」調べることです。



地域福祉推進会議（横山地区）

例えば・・・

地区で生活する中で感じている「困りごと」

- ・近所付き合いが少ない
- ・高齢者独居の居場所や見守りがない
- ・世代間の交流がない
- ・自治会加入者が減少
- ・子どもの遊び場が少ない
- ・自由に集まれる場所がない
- ・子育て世代を応援したい つながりたい
- ・・・etc

抽出されたいくつかの「困りごと」を分類し、さらに調査を通して解決に向けて取り組むべき「困りごと」を絞り込みます。

まずは、いろいろなアイデアを出し合います。その中で、地域で取り組める仕組みなどを考えていきます。

共通課題として

⇒地域から孤立しがちな人たちが楽しく地域デビューできるには？

解決に向けたアイデアを出し合う

- ・住民が自由に集まれる場所を見つける！
- ・世代間交流ができるイベント！
- ・地域の高齢者や子どもの見守り活動！
- ・赤ちゃんの誕生を地域でお祝いしたい！

いろいろなアイデアから、取り組む内容を考えます。

ポイント
 みんなが関わられるように、「気軽に」、「楽しく」取り組めることを考えます。

アイデアから、こんな取り組みの花が咲きました！！

- ・地域住民の交流の場「ふれあいの家めぐり」【橋本地区】
- ・三世代心でつながる街中央地区「世代間交流事業」【中央地区】
- ・ひとり暮らし高齢者等の見守り活動「支え合い（愛）相武台」【相武台地区】
- ・新生児世帯への手作りおもちゃ配布「こんにちは赤ちゃん！さがみこ “ぬくもり” 支援事業」【相模湖地区】

地域に花が咲くのは地域に必要な種をまいたから！

福祉コミュニティ形成事業実施状況

平成 25 年 3 月現在

福祉コミュニティ形成事業は各地区の地区社会福祉協議会が取り組んでいます。

- ① 橋本地区 常設の交流の場「ふれあいの家めぐり」を設置・運営
 - ③ 城山地区 小地域の交流の場「原宿なごまーる」・「若葉ほっこりーな」を定期開催
 - ④ 津久井地区 小地域をモデル指定し、お年寄り等の日常的な支援の仕組みや見守り活動を実施
 - ⑤ 相模湖地区 子育て支援事業（子育てマップ、新生児が生まれた世帯へプレゼント）みまもりネットワーク（地域のお店による見守り）・自家用車を使った買い物支援
 - ⑥ 藤野地区 地域の中での孤立を防ぐ「たまり場」づくりを実施
 - ⑧ 清新地区 「ちょこっとボランティアくらぶ」（身近な地域でのボランティアの登録・調整）を実施
 - ⑨ 横山地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑩ 中央地区 世代間交流を目的とした活動拠点を設置、世代間交流のイベントを開催
 - ⑪ 光が丘地区 ひかりサポートセンター（身近な地域でのボランティアの登録・調整）、常設の交流の場「光が丘にぎわい処」を設置
 - ⑫ 星ヶ丘地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑬ 田名地区 田名ボランティアセンター（身近な地域でのボランティアの登録・調整）を設置
 - ⑭ 麻溝地区 平成24年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げて検討しています。
 - ⑯ 相模台地区 「地域での活動の仕組みづくり」と拠点整備について検討
 - ⑰ 相武台地区 ひとり暮らし高齢者の見守り活動「支え合い（愛）相武台」を実施
 - ⑱ 東林地区 交流の場「東林いこいの広場」、新たな地域活動の担い手づくり「東林いきいき塾」
- 平成25年度から ② 大沢、⑬ 大野中、⑲ 新磯の3地区が検討をスタート！



今後、各地区で福祉コミュニティ形成事業取り組み開始準備中！

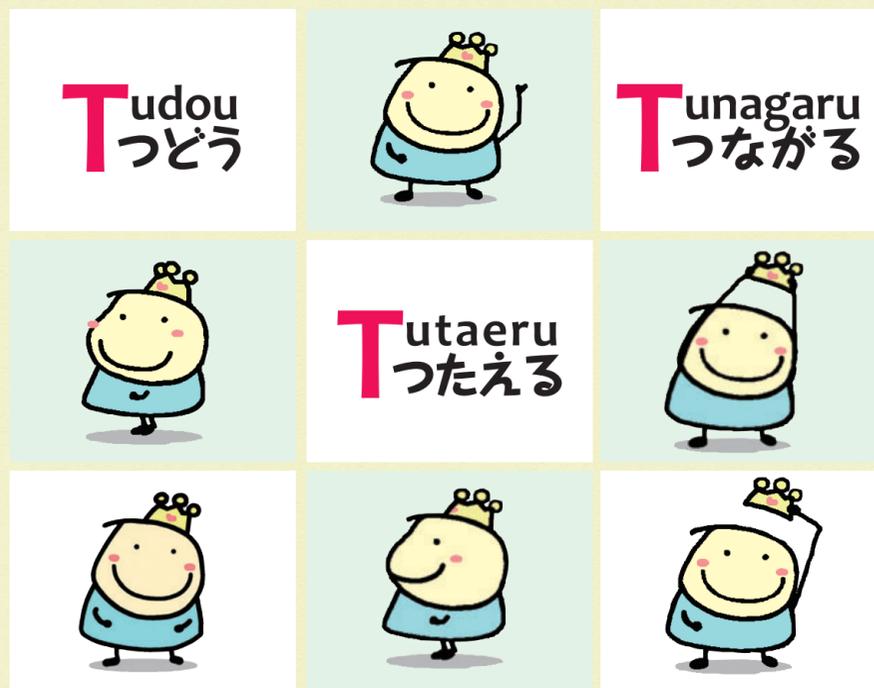
【福祉コミュニティ形成事業に関するお問い合わせは？】

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 福祉推進課地域福祉係
 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20
 電話 042-756-5034 ・ FAX 042-759-4382
 詳しくはホームページをご覧ください。
 ホームページ <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/>



3つのTが地域に根づく花が咲く！
 楽しく「ふくし」でまちづくり

福祉コミュニティ形成事業のすすめ



地域福祉は誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の方々と行政や福祉の専門家が協力して福祉課題の解決に取り組むものと言えます。

ここで紹介するのは、地域の福祉課題である孤立や孤独、そしてその解決策として住民の絆づくり等について、各地区の社会福祉協議会などが中心になって、住民自身が調査や話し合いなどをしながら創り上げた助けあい活動の実践の数々です。

相模原市
 社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

福祉コミュニティ形成事業は、地域福祉活動の推進役として地区社会福祉協議会が中心となり、地域の皆さんで「困りごと」の解決策を考え、支え合いのまちづくりを目指すものです。

相模原市はこのような取り組みの過程を含めた実践を「福祉コミュニティ形成事業」と定め「相模原市地域福祉計画」の重点事業に位置づけて、活動財源の支援を行っています。また相模原市社会福祉協議会は「福祉コミュニティ形成事業」に取り組む地域の方々へ必要な情報の提供等を行っています。



橋本地区社会福祉協議会



“ぬくもり”あふれるまちづくりに向けた地域住民の交流の場

庭にはいつも綺麗な花が植えてあり、日当たりも良い場所。橋本商店街を抜けたところにたたずむ、ふれあいの家橋本「ぬくもり」。

橋本地区では、年々都市化が進み、昔のような近所つき合いや地域のつながりが少なくなっています。橋本地区社協ではそうした課題解決の一助になればと、橋本駅近くの一軒家を借り受け、橋本地区社会福祉協議会活動センターふれあいの家橋本「ぬくもり」を開所しています。



園芸教室



料理教室

「ぬくもり」では、庭を利用し、花植えをしながらおしゃべりを楽しむ「園芸教室」、健康増進・予防の学びを体験する「健康増進整体・マッサージ教室」、高齢者向けのサロンや、親子向けの子育てサロンの開催など様々な住民同士の出会いを作る交流活動をしています。

子育てサロンは「ぬくもり子育てサロン」として、昔ながらの庭で外遊びもできるサロンです。料理教室なども開催していて、地域の先輩お母さんが新人お母さんに料理を教えるなど、世代間交流の場ともなっています。

藤野地区社会福祉協議会

世代を超えて交流できる「たまり場」づくり

藤野地区では、年齢に関係なく地域に住む一人ひとりが孤立しないように、気軽に集まり世代を超えて交流できる「たまり場」作りに取り組んでいます。

もともと高齢者のつどいの場「サロン」が活発な地区で、既にある活動を活かしながら、小学生から高齢者まで集まれる「たまり場」をつくり、世代を超えた地域の絆が深まっています。



たまり場



中央地区社会福祉協議会



三世代心でつながる街

中央地区では、地域の人の出会いの場をたくさん作ることで隣近所の「つながり」を強めようと、趣向を凝らした行事や定期的な集まりを開いています。キーワードは世代間交流。

地区社協と自治会の共催で「三世代レクリエーション大会」を開催。赤ちゃんからお年寄りまで集まり、近所でも知らなかった人と知り合ったり、あいさつ程度のご近所さんと仲良くなったり、みんなが笑顔になれるつながりができました。



三世代レクリエーション大会

相模湖地区社会福祉協議会



気軽についでに地域で見守り！



「みまもりネットさがみこ」協力店

相模湖地区は市内で最も少子高齢化が進んだ地域。地区社協では高齢者の「見守り」の「仕組み」について、地域の強みを活かした取り組みを考えました。

それが「みまもりネットさがみこ」です。地域の強み、それは「顔見知り」と考え、目を付けたのが地域のお店です。相模湖のお店はお客様と長いお付き合い。お客様がどこの誰であるかを良くご存じです。そこでお店の日頃のお仕事のついでに、例えば「支払いの時、お金を出すのにいくら出してよいかかわからず困っている様子を感じた。」など、お年寄りのちょっとした変化をキャッチして地域包括支援センターや民生委員等相談機関につなげていただいてはどうか？これなら負担感が少なく、気軽にできて効果も大きいのでは？と考えました。

協力店は写真のステッカーが目印です。

田名地区社会福祉協議会



地域住民による支え合いの活動の仕組み「田名ボランティアセンター」

田名地区では、「地域住民の困りごと」に対する「地域住民による支え合い」の活動の仕組みとして、田名ボランティアセンター（以下 田名ボラセン）を運営しています。立上げの目的としては、新たな個人ボランティアの受け皿づくりという意味もありました。

センターの開所日は毎週火曜日と土曜日（10:00～15:00）で、19名のコーディネーターと61名のサポーターの皆さんが活動しています。

また、「支えあい・助けあい」の気持ちが田名に根づいていくことを目指して、ボランティア講座の開催や、中学生のボランティア体験の機会を作るなど、ボランティア活動への啓発も行っています。



中学生の福祉施設ボランティア体験



光が丘地区社会福祉協議会



生活の中でのちょっとした「困りごと」を解決するために

昔、お隣さん同士で助け合っていた「ゴミ出し」、「電球の交換」のような生活の中でのちょっとした「困りごと」。今、光が丘地区では「サポート隊」が「困りごと」の解決のお手伝いをしています。

地域の皆さんが「サポート隊員」として登録し、「気軽に無理なく楽しく」をモットーに「買い物」や「草とり」など、ご近所同士の助け合いの活動をしています。

「困っている…」の声に応える「サポート隊」の活動が、地域でたくさんのひとを笑顔にしています。



光が丘にぎわい処

地域の中でおしゃべりできる場があったらいいな…

光が丘地区でのもう一つの取り組みが「にぎわい処」。さまざまな世代の方たちが気軽に立ち寄り、お茶や食事を楽しみながら交流する場として週2日（火曜、木曜）オープンしています。

いつも笑い声が絶えず、仲間づくりの場になっています。

東林地区社会福祉協議会



福祉活動の担い手づくり、学びの場づくりを目指して

ボランティアに興味はあるものの、どんなことをするのかわからないという方やボランティアを通じて仲間を増やしたいという方などのために、地域で行われているさまざまな福祉活動を紹介し、地域福祉活動を支える仲間になってもらえるように「東林いきいき塾」を年6回開講しています。

気軽におしゃべりをして食事也能る気軽ないこいの場

高齢者や地域のみなさんの交流の場（軽食もあります！）として「東林いこいの広場」は月2～3回、また「木曜喫茶」は毎週木曜日にボランティアさんによって運営されています。

いこいの広場にきた人からは「初めて来たけど、みなさんが気さくに声をかけてくれるし、カレーもおいしい。また来ます。」と好評です。



東林いきいき塾

以上の取り組みは、
広報 社協さがみはら みんないいひと
「シリーズ 楽しく「ふくし」でまちづくり」より
抜粋しました。



なんで根づくの？



それは地域の皆さんが感じている「困り事」に対応しているから！
福祉コミュニティ形成事業を進めるに当たっては**地域福祉推進会議**を開催！
何に取り組むか？は地域の皆さんが決定。各地区で地域の「困りごと」を
住民パワーで解決する方法や仕組みを皆さんで話し合います。

まずは話し合いで種まき！

花を咲かすにはまず**種まき**から！地域福祉推進会議で最初に行うこと、
それは地域の課題「困りごと」を調べることです。
日ごろ感じている「困った！」をメンバーで出し合います。

Q. 地域で生活する中で感じている「困りごと」ってどんなもの？

- ・近所付き合いが少ない
- ・一人暮らし高齢者の居場所や見守りがない
- ・世代間の交流がない
- ・自治会加入者が減少
- ・子どもの遊び場が少ない
- ・自由に集まれる場所がない
- ・子育て世代を応援したい

A. 例えば…

種は一度にたくさん育てるのが難しいので一つ一つ育てます。
メンバーで出し合った「困りごと」の中から、調査を通して解決に向けて
取り組むべき「困りごと」を絞り込みます。

花を咲かせるために、困りごとの解決に向けたアイデアを出し合います。

Q. どんなアイデアを出せばいいんだろう？

A. 例えば… 絞り込んだ「困りごと」が「地域から孤立しがちな人たちが楽しく地域
デビューできるには？」だとしたら、こんなアイデアが考えられます。

- ・住民が自由に集まれる場所を見つける！
- ・世代間交流ができるイベント！
- ・地域の高齢者や子どもの見守り活動！
- ・赤ちゃんの誕生を地域でお祝いしたい！ 等

「こうすれば解決できるのでは？」という意見を自由に出し合います！

いろいろなアイデアの中から、取り組む内容や仕組みを考えていきます。
このようにして各地区でさまざまな取り組みが花開いています！

● 種まきの際のワンポイント ●

みんなが「気軽に」、「楽しく」取り組める方法を考えることです！

花が咲くのは
地域に必要な
種をまいたから！

地域福祉推進会議のようす

大野中地区社会福祉協議会（平成25年度～）

地域福祉推進会議に様々なグループワークの手法を導入し、地域の
困りごとを丁寧に話し合うことから始めています。そこから“地域福
祉活動の担い手が不足している”という大きな課題が見えてきました。
“新たな担い手を確保し、地域の課題を地域で解決できるような仕組
みづくり”を目指し、今後も引き続き検討を重ね、具体的な取り組み
の実施を目指していく予定です。



新磯地区社会福祉協議会（平成25年度～）

「近所のつながりを深め、高齢者等が孤立しない地域を作りたい」
というテーマを設定し、地域の見守り活動について、平成25年度から
設置した推進会議にて検討を始めています。今後は、先駆けて見守り
活動をしている地域への視察を行い、新磯地区の特性に合わせた
見守り活動の計画・試行を行う予定です。



福祉コミュニティ形成事業実施状況 平成26年3月現在

福祉コミュニティ形成事業は各地区の地区社会福祉協議会が取り組んでいます。

- ①橋本地区 常設の交流の場「ふれあいの家めぐり」を設置・運営
 - ②大沢地区 小地域での交流の場づくりを検討中
 - ③城山地区 小地域の交流の場「原宿なごまーる」・「若葉ほっこりーな」・「ふれあいカフェ」を開催
 - ④津久井地区 小地域をモデル指定し、高齢者等の日常的な支援の仕組みや見守り活動を実施
 - ⑤相模湖地区 子育て支援事業や地域の商店等による見守り活動、自家用車を使った買い物支援
 - ⑥藤野地区 地域の中での孤立を防ぐ「たまり場」づくりを実施
 - ⑦清新地区 身近な地域でのボランティアの登録・調整を行う「ちょこっとボランティアくらぶ」の実施
 - ⑧横山地区 住民の居場所づくりと見守りを促進するための拠点「コミュニティよこやま」の運営
 - ⑨中央地区 世代間交流を目的とした活動拠点を設置、世代間交流のイベントを開催
 - ⑩星が丘地区 子供から高齢者までの世代間交流を目的に「星が丘いこいの広場」「千代田いこいの広場」を開催
 - ⑪光が丘地区 身近な地域でのボランティアの登録・調整を行う「ひかりサポートセンター」、常設の交流の場「光が丘にぎわい処」を設置
 - ⑫田名地区 身近な地域でのボランティアの登録・調整を行う「田名ボランティアセンター」を運営
 - ⑬大野中地区 平成25年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げ、活動の新たな担い手と活動拠点づくりについて検討
 - ⑭麻溝地区 身近な地域でのボランティアの登録・調整を行う「ボランティアセンターあさみぞ」を運営
 - ⑮新磯地区 平成25年度より「地域福祉推進会議」を立ち上げ、高齢者等の見守り活動について検討
 - ⑯相模台地区 身近な地域でのボランティアの登録・調整を行う「いきいきサポート」の実施、ボランティア入門講座の実施、地域向け情報紙「福祉コミュニティいきいき」の発行
 - ⑰相武台地区 一人暮らし高齢者の見守り活動「支え合い（愛）相武台」を実施
 - ⑱東林地区 交流の場「東林いこいの広場」、新たな地域活動の担い手づくり「東林いきいき塾」の実施
- 平成26年度から⑦小山、⑬大野北、⑮上溝、⑰大野南の4地区が検討を開始する予定です。

【福祉コミュニティ形成事業に関するお問い合わせは？】

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 福祉推進課 地域福祉係
〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20
電話 042-756-5034・FAX 042-759-4382
市社協ホームページ <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/>
平成26年3月発行



※本事業は、皆さまから相模原市社会福祉基金に寄せられたご寄附を活用して実施しています。

3つのTが 地域に根づく花が咲く！ 楽しく「ふくし」でまちづくり

福祉コミュニティ
形成事業のすすめ

平成26年度版



咲かせよう！Tの花

花言葉は「たすけあいの心」。
3つのTの花びらを咲かせて、
地域の困りごとの解決にチャレンジするのさ☆



相模原市協
マスコットキャラクター
にごまる

このリーフレットは住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるよう、地域の福祉課題である
孤立や孤独、そしてその解決策として住民の絆づくり等について、各地区の社会福祉協議会などが
中心となって、住民自身が調査や話し合いをしながら創り上げた助けあい活動の実践集です。

相模原市
社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

福祉コミュニティ形成事業とは・・・



皆さんの住む地域に「困りごと」はありませんか？
福祉コミュニティ形成事業は、地域で困りごとを見つけたとき、地区社会福祉協議会を中心とした、地域の皆さんの力で解決していけるまちづくりを目指していくもので、「相模原市地域福祉計画」の重点事業に位置付けられています。

皆さんが事業に取り組むにあたり、相模原市は活動財源の支援を行っています。また、相模原市社会福祉協議会は検討過程で必要な情報の収集、提供等の支援を行っています。

Tudou (つどう) = 交流・仲間づくりの場の充実

Tunagaru (つながる) = 困りごとを発見するためのネットワークづくり

Tutaeru (つたえる) = 福祉活動への理解者・協力者を増やすための取り組み

城山地区社会福祉協議会 (平成22年度～)



交流の場「原宿なごまーる」、「若葉ほっこりーな」、「ふれあいカフェ」



原宿なごまーるでコーラス！

地域の困りごと解決に向けての話し合いの中で、「近所付き合いが薄い」、「いざという時のためにも人がつながる場が大事」、「赤ちゃんから高齢者までみんなで気軽に集える憩いの場がほしい」等の声があったことから、交流の場として、原宿地域と若葉台地域にそれぞれ「ふれあいのつどい原宿なごまーる」と「交流の場若葉ほっこりーな」を月に1回開催しています。交流の場では、赤ちゃんからお年寄りまで集まり、世代を超えた交流が生まれています。また、乳幼児をもつママ同士のつながりも深まってきています。さらに久保沢地域でも「ふれあいカフェ」が月に1回開催されるなど、地域の交流の場は広がりつつあります。

相武台地区社会福祉協議会 (平成22年度～)



見守り活動「支え合い(愛)相武台」

高齢者が孤立や孤独にならないようにさりげなく見守り、住み慣れた家、地域で安心して暮らす応援として、「支え合い(愛)相武台見守り活動」を実施しています。

自治会、民生委員、ボランティア等から構成される活動員が一人暮らしの高齢者等で見守りを希望する方を定期的に訪問しています。また、新聞や郵便物がたまっていないか、カーテンや雨戸が閉まったままになっていないかの確認等、見守られる方にも負担がかからないよう気を配りながら活動をしています。



見守り定期訪問

津久井地区社会福祉協議会 (平成23年度～)



見守り活動「小網ふれあいネットワーク」

日常的な高齢者の見守り支援の仕組みとして、地区社協に9つある支部社協の中で小網支部をモデルにした「小網ふれあいネットワーク」を実施しています。

対象者は75歳以上の人で、地域住民から募集した「ご近所協力者」等ネットワークのメンバーが「安心袋」を配布しています。安心袋には懐中電灯・水・ビスケット・個人状況票が入っていて、賞味期限のあるものを半年に1回交換するために訪問することで「高齢者等の把握、声かけ・見守り活動」を行う仕組みになっています。

同時期に開始された「ふれあい・いきいきサロン」とともに、地区全体に活動が広がってきています。



安心袋を配布

清新地区社会福祉協議会 (平成23年度～)



ボランティア登録制度「ちょこっとボランティアくらぶ」



棚づくりボランティア

「ゴミ出しが大変」、「新聞や雑誌を束ねることができなくなった」、「電球が切れてしまった」、「庭の草が伸びてきて気になる」など日常生活のちょっとした困りごとをみんなで助け合って解決できたらもっと住みよい地区になるだろう…という願いから、「ちょこっとボランティアくらぶ」を開始しました。

「ちょこっとボランティアくらぶ」は、高齢者や障害のある方等が抱えるちょっとした困りごとの解決のために登録ボランティアが活動する仕組みです。「ちょっと助けてもらいたい」、「ちょっとならお手伝いできる」。そんな「ちょっと」の気持ちや思いをつなげる活動をしています。

相模台地区社会福祉協議会 (平成23年度～)



ボランティア登録制度「いきいきサポート」

地域活動に参加を希望する方々がスムーズに活動へつながるように、ボランティア入門講座の開催や紙面での情報発信を行い、ボランティアの育成に取り組んでいます。ボランティア登録制度「いきいきサポート」を立ち上げ、登録された方は、まず地区社協事業へ協力していただけます。また、情報紙「福祉コミュニティいき・いき」を発行し、活動につながるように情報を発信しています。



ボランティア入門講座

麻溝地区社会福祉協議会 (平成24年度～)



ボランティア登録制度「ボランティアセンターあさみぞ」

地域の方々の「ボランティア活動をしたいのだけど、きっかけがない」、「将来、ひとりで生活することになった時に話し相手ほしい」といった声を聞き、ボランティア活動がしたい人と、お手伝いを必要としている人をつなげるため、「ボランティアセンターあさみぞ」を開設しました。

ボランティアを依頼できるのは、地区在住の高齢者、障害者等と福祉施設等です。ボランティア・コーディネーターも地域の状況が分かっている地元の方々で行っており、困っている方を身近な住民同士で支え合うことを目指しています。



ボランティアセンターあさみぞ

横山地区社会福祉協議会 (平成24年度～)



コミュニティよこやま

交流の場「コミュニティよこやま」

「居場所」と「さりげない見守り活動」を目的として「コミュニティよこやま」を開所しました。子育て世代から高齢者までどなたでも、買物や散歩のついでにちょっと立ち寄れて自由におしゃべりを楽しんだり、地域のふれあいきいきサロン、子育てサロンやボランティア活動などの情報提供を行なっています。

また、来所をきっかけに普段からあいさつや声かけができる関係をつくることも目指しています。

星が丘地区社会福祉協議会 (平成24年度～)



交流の場「いこいの広場」

昔のご近所付き合いのように、子どもから高齢者が気軽に道端であいさつ出来るような関係作りを目指し、世代間交流広場として「千代田いこいの広場」「星が丘いこいの広場」を開設しました。おしゃべり、趣味のコーナー(手芸、囲碁、将棋等)、「軽食喫茶」を通して住民による世代間交流の輪を広げています。今後も星が丘地区内にいこいの広場を広げていく予定です。



いこいの広場

大沢地区社会福祉協議会 (平成25年度～)



「大沢comcom.com」による地域交流の場づくり

地域福祉推進会議の愛称を「大沢comcom.com」と決め、小地域での地域交流の場づくりをテーマに取り組んでいます。常盤自治会館で行った第1回目の企画は、約50名が参加。様々な方が特技を披露され、みんなで一緒に楽しむ場となりました。まずは笑いヨガで体をほぐしてのスタート!! 今後も小地域での取り組みを進めていく予定です。



交流の場

